

For most background music, / the soundtracks have been carefully **selected** <to change human behavior>.

The **main** effect of background music is / [that it **reduces** work-related **stress** / and helps employees **stay** interested in their work].

不定詞の副詞用法
= background music
C₂ (動詞の原形)

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. Slow music will change human behavior more than fast music will. ()
2. Factory workers work faster with fast music and work slower with slow music. ()
3. In many factories, background music is used to reduce work-related stress. ()

覚えておきたい表現

make + A (人) + 原形「A に…させる」

ℓ.5 : Slow music, for instance, will **make customers shop** more slowly. 「例えば、 ゆっくりとした音楽は、客にもっとゆっくりと買い物をさせる。」

・ make + A (人) + 原形 : 「(無理にでも) A に…させる」という強制的なニュアンスを持つ。

Ex. She **made her dog wait** outside the beauty salon for an hour. 「彼女はイヌを美容院の外に1時間待たせた。」

・ will はここでは、習慣、特性、傾向などを表し「…する傾向がある」という意味になる。

the 比較級 ~, the 比較級 ... 「～すればするほど、より…する」

ℓ.6 : **The longer** they shop in a store, **the more** they will buy. 「客は店の中で長く買い物をすればするほど、よりたくさん購入してくれるものなのである。」

・ The 比較級 + S' + V', the 比較級 + S + V の語順になることに注意。

Ex. **The higher** you climb, **the colder** the air gets. 「高く登れば登るほど、空気は冷たくなる。」

nor ... 「また…でもない」

ℓ.8 : Fast music does not make employees work faster as some had expected, **nor** does slow music make them work slower. 「速い音楽が、何人かが予想していたように、従業員にもっと速く仕事をさせることはなく、ゆっくりとした音楽が、彼らにもっとゆっくり仕事をさせることもない。」

・ nor ... は否定的な内容の後にきて、節を続ける時はその後ろの文は(助)動詞+主語の語順になる。

Ex. I have never seen him, **nor** do I want to. 「彼に会ったことはないし、また会いたくもない。」

・ as some had expected 「何人かが予想していたように」: この場合の接続詞 as は「…のように; …の通りに」という意味。

整理しよう! *段落要旨・構造*

① バックグラウンドミュージックの役割

人間の行動を変えるように注意深く選ばれる。

バックグラウンドミュージックの例1

◆ ℓ.5 **for instance** 「例えば: 例」

ゆっくりした音楽は客にゆっくり買い物をさせる。→ 客はよりたくさん品物を購入する。

② バックグラウンドミュージックの例2

◆ ℓ.7 **also** 「また: 列挙・追加」

多くの工場でもまた、従業員の仕事のストレスを減らし、仕事に意欲を持ち続けられるようにしている。(その結果) 工作中的の事故が減り、会社のお金が節約できる。

③ まとめ

バックグラウンドミュージックが、自分のどの行動を変えさせようとしているのか考えてみよう。

背景知識

●BGM (バックグラウンドミュージック) の効用 — エレベーター・ミュージック

アメリカでは20世紀初頭の頃、蓄音機から流れる音楽を聞いた人の心理面の変化をエジソンが調べたことから BGM の効果に関する研究が始まっている。BGM とは、労働者を対象とすれば、その心理面に作用して作業効率の向上を狙うものとなるが、それに限らず、人の精神に働きかけてさまざまな効用を狙うものと言える。もちろん、ストレスを軽減させたり、リラックス効果をもたらしたりといったことを目的に制作された BGM も研究のうちに含まれるが、アメリカではこういった BGM は嘲笑まじりに「エレベーター・ミュージック」と呼ばれることもある。

「エレベーター・ミュージック」という呼び名は、19世紀末に電動エレベーターが登場したことと関係が深い。エレベーターが登場した当初、エレベーターの乗客はエレベーターのケーブルが切れて落下事故が起きないかどうか不安になることが多かった。こうした乗客の不安感を和らげるため、高層ビルの所有者やエレベーターメーカーがエレベーターの BGM として穏やかな音楽を流したことが始まりである。

【深めたい人に】: ジョゼフ・ランザ著、岩本正恵訳『エレベーター・ミュージック—BGM の歴史』(白水社、1997年)、岩宮眞一郎『よくわかる最新音響の基本と仕組み』(秀和システム、2007年)